

ダゾメット微粒剤を用いたホウレンソウケナガコナダニ防除法

【要約】夏ホウレンソウ栽培で春、秋に問題となるホウレンソウケナガコナダニについて春の防除には前作の秋にダゾメット微粒剤を用いて防除を行う。効果は高く、降雪による休作期間に被覆無しで作業できるため実用性が高い。ただし、春のみの効果である。

中山間農業研究所・栽培研究部

【連絡先】 0577-73-2029

【背景・ねらい】

岐阜県飛騨地域の簡易雨よけハウスで生産される夏どりホウレンソウにおいてホウレンソウケナガコナダニ（以下コナダニ）の被害が現在拡大している。防除薬剤としては茎葉処理を行う散布剤も登録されているが、本来コナダニが生息する土壤には浸透しないなどの理由により、効果は不安定である。そこで冬期の休作期を利用し、本来の生息域である土壤を“ダゾメット微粒剤”を用いてくん蒸し、コナダニの防除を行う。

【成果の内容・特徴】

- 1 散布時期は最終作終了後とし、翌年春の被害を回避する。これにより作付け期間への影響を与えずに防除が可能となる。
- 2 散布量は 30kg/10a（平成 24 年 3 月現在）で非常に高い効果が得られる（表 1，中山間農業研究所調べでは 10kg/10a 程度でも十分な効果がある）。
- 3 ダゾメット微粒剤は専用の散布機などを用い、未散布場所を無くし、均一に散布を行うことで効果が安定する（図 1）。
- 4 効果は 1 作程度であり、秋作までの効果は期待できない（表 1）。
- 5 同一のは場管理を行ってもは場間の個体数差・は場内の個体数差が非常に大きいため、試験的な使用に際しては 3 棟程度の連棟ハウスを用いる（データ略）。

【成果の活用・留意点】

- 1 ダゾメット微粒剤の使用にあたっては使用基準を厳守する。
- 2 ダゾメット微粒剤は薬害が出やすいため使用にあたっては「適湿な状態での処理」、「は種までの期間を十分に確保する」、「発芽試験の実行」など留意する。
- 3 秋・冬期処理は被覆の必要がないが、土壤鎮圧などガスの拡散防止対策を行う。
- 4 気温・地温が高いと大気中への気散が多くなるため、作付け終了後、なるべく低温になってから作業を行う（データ略）。

【具体的データ】

表1 ホウレンソウケナガコナダニに対するダゾメット微粒剤の影響

区	施用量 (kg/10a)	H23秋		H24春	
		処理前	処理直後	融雪直後	1作終了時
無処理	0		7.7	8.0	28.6
ダゾメット 微粒剤処理	10	128	0.03	0.03	1.23
	13		0	0.22	1.72
	20		0	0.02	0.38

(頭/100ml)



図1 ダゾメット微粒剤の散布機

研究担当者：浅野雄二